

**KOBELCO**

**KOBELCOグループ  
中期経営計画（2021～2023年度）  
進捗説明会**

2023年5月18日  
株式会社 神戸製鋼所

---

**1. はじめに**

2. 安定収益基盤の確立

3. カーボンニュートラルへの挑戦

**安定収益基盤の確立**

**カーボンニュートラルへの挑戦**

1

加速

カーボンニュートラル  
への移行・社会変革

2

加速

サステナビリティの  
潮流

3

加速

デジタル  
トランスフォーメーション

リスク

収益基盤脆弱化、企業価値の毀損

機会

事業構造変革と新たな収益機会の獲得

4

鉄鋼業界の  
構造的問題

5

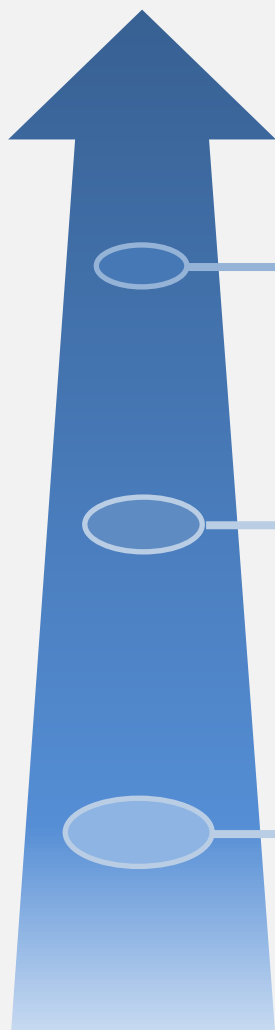
コロナ禍を契機とした  
産業構造の変化

6

拡大

調達コストアップと  
サプライチェーンリスク  
(需要・生産面)

## 企業価値の向上



ステークホルダーの皆様への  
還元拡充

資本コストを低減し、上回るリターンを  
安定的に確保

[ROIC目標：2023年度5%以上、将来8%以上]

“資本コスト低減に繋げる戦略”と  
“成長市場への対応”を峻別

## 1. 資本コスト低減に 繋げる戦略

- 既存事業の収益基盤強化と安定収益構造への転換
- 財務体質強化

## 2. 成長市場への対応

- カーボンニュートラルの進展に対応した事業展開

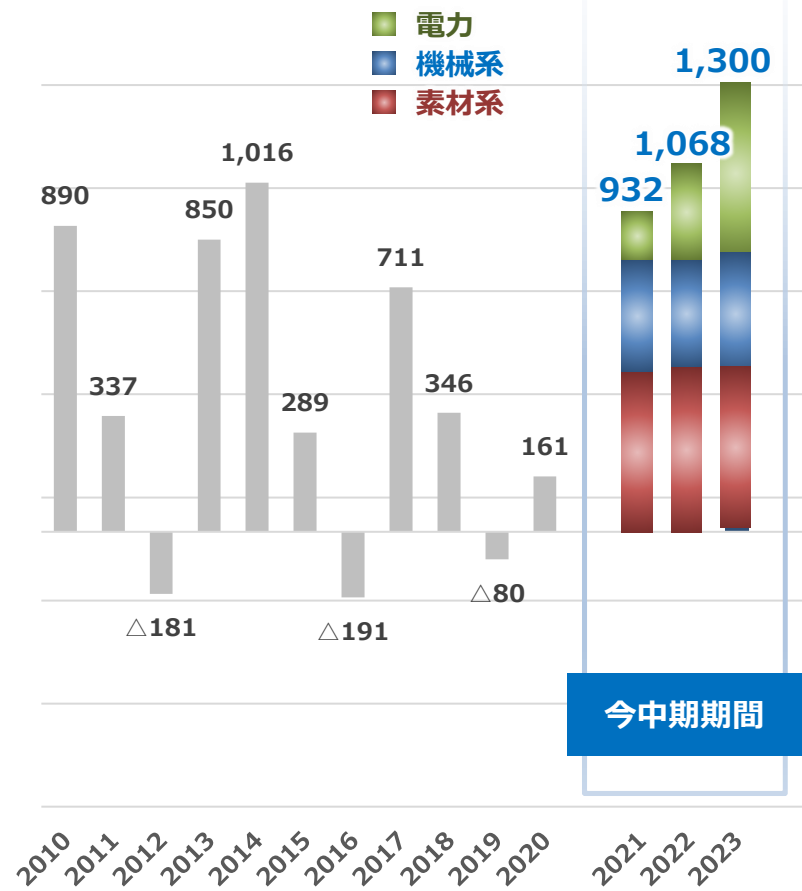
1. はじめに

2. 安定収益基盤の確立

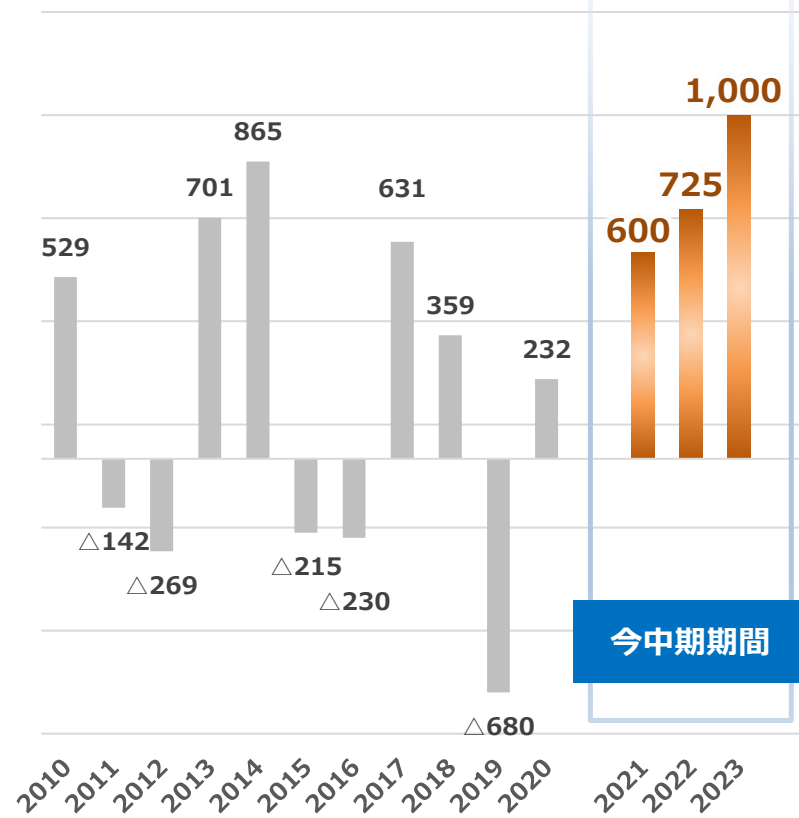
3. カーボンニュートラルへの挑戦

“安定収益基盤の確立”に向けた取組みは順調に進展

● 連結経常損益 (億円)



● 連結当期純損益 (億円)



中期目標 = 2023年度 “ROIC 5%以上” を達成する見通し

## ● ROIC推移

6.0 %程度

中期目標 : 5.0%以上

1.1 %

4.7 %

4.9 %

2020年度  
(実績)

2021年度  
(実績)

2022年度  
(実績)

2023年度  
(見通し)

ROE [当期純利益/自己資本]

[3.4%]

[7.9%]

[8.4%]

[10.5%]

KOBELCOが目指す  
**将来の姿**

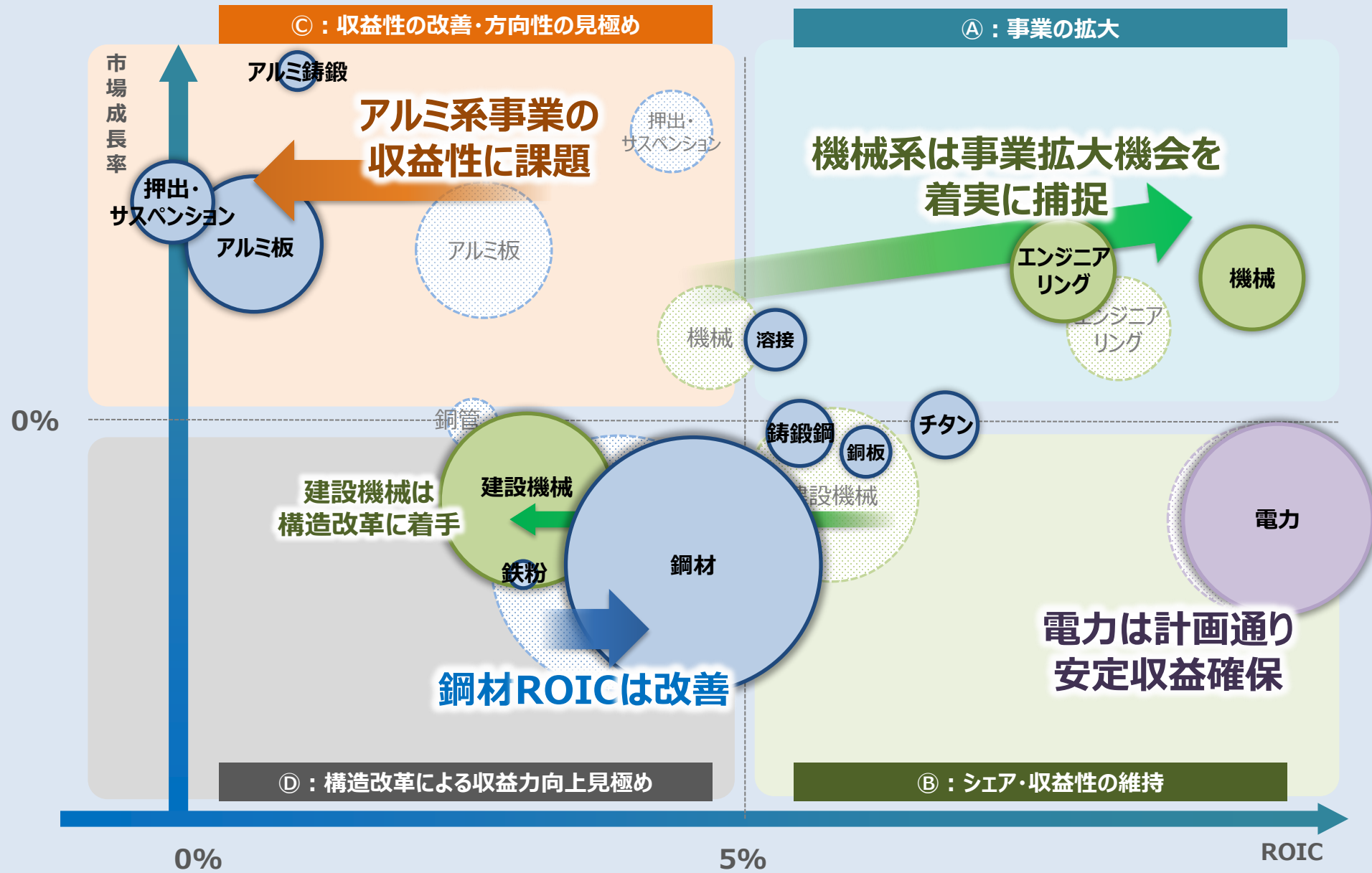
事業活動を通じた  
社会課題の解決と  
経済価値の創出



**ROIC 8% 以上**

を安定的に確保し、  
持続的に成長する  
KOBELCOへ





# 5つの重点施策

## 1 鋼材事業の 収益基盤強化

- 損益分岐点の引き下げ  
→ **600万トンの黒字体制に目処**
- 品種構成改善  
→ **自動車需要減もあり道半ば**



…P12,13

## 2 新規電力プロジェクトの 円滑な立上げと安定稼働

- 既存発電所の安定稼働
  - 神戸3,4号機の稼働開始による  
安定収益の確保
- **予定通り稼働**



…P14

## 3 素材系事業 戦略投資の収益貢献

- 自動車軽量化戦略投資の  
着実かつ早期の収益貢献
- **アルミ系事業の収益低下**



…P15,16

## 4 不採算事業の 再構築

- 鋳鍛鋼事業、チタン事業、  
クレーン事業の黒字化
- **黒字化達成の見通し**



## 5 機械系事業の収益安定化 と成長市場への対応

- 環境貢献メニューの拡充と  
グループ内連携の強化
  - 建設機械事業の収益構造変革
- **受注堅調、着実に進展**



…P17~20

外部環境が変化する中、2023年度中期目標の収益を達成する見通し

●粗鋼生産量・実力損益 (在庫評価影響を除く経常損益)

	(実績)	中期想定	実績・見通し		
	2020年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度
粗鋼生産量 (百万t)	5.7	6.3	6.4	6.0	6.0
連結実力損益 (億円)	△208	230以上	△84	335	390

- マクロ環境 (全国粗鋼・自動車生産他) が中期想定を下回る中、数量は減少
- 一方、メタルスプレッド改善を主要因に2023年度は中期目標の収益を上回る

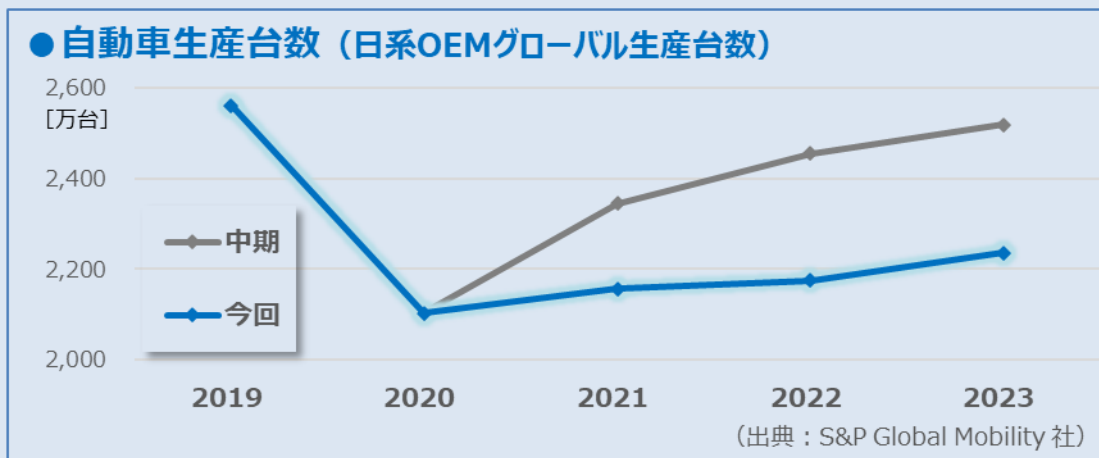
●2020→2023年度  
実力損益※差異 (億円)

※在庫評価影響除く

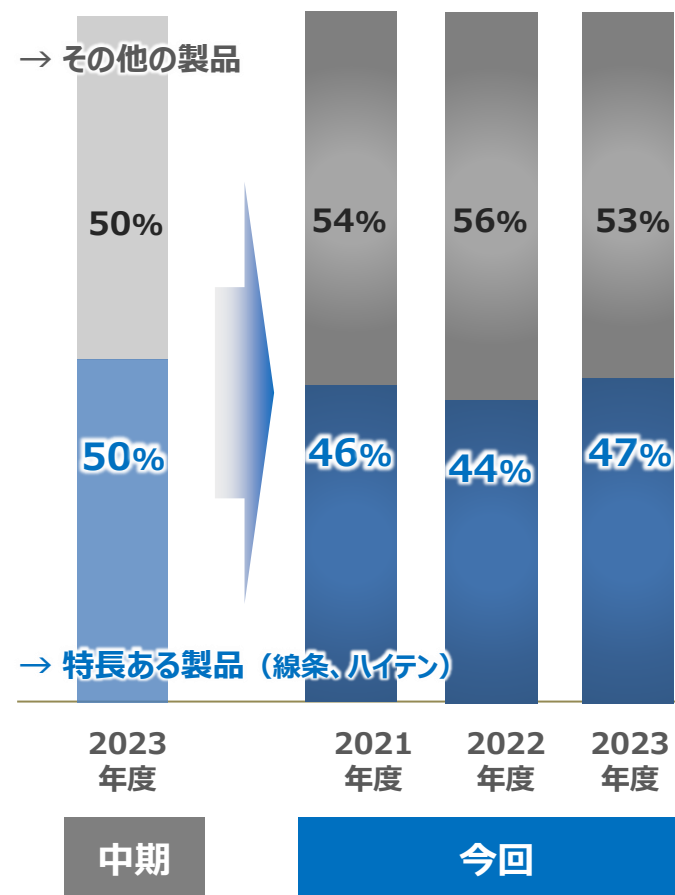


メタルスプレッド改善で損益分岐点引下げも、品種構成改善等は道半ば

中期で掲げた課題	現状
品種構成改善	特長ある製品の比率は目標未達
価格改善	メタルスプレッド改善 更なるコスト増を踏まえ継続注力
コストダウン	原料コスト等は高騰も、 操業コストダウンは着実に進捗
固定費削減	人件費・諸資材高騰で含め増加
主要海外事業 収益改善	自動車需要の減少等により、 中期想定には至らず



●品種構成の変化

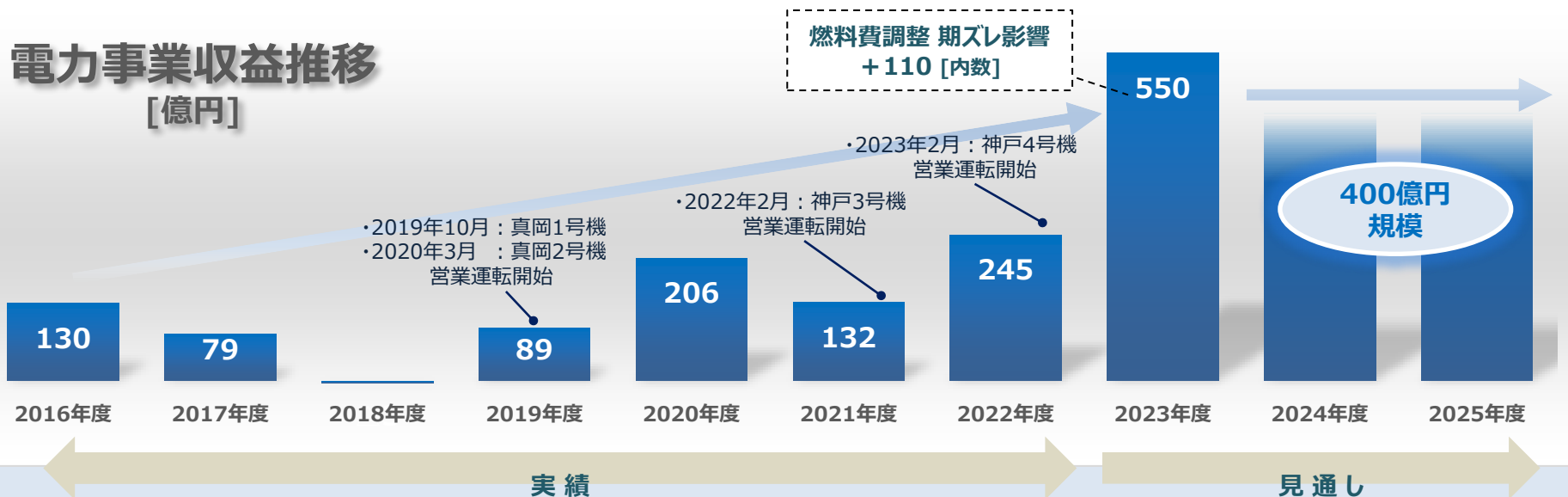


## 2023年2月に神戸4号機稼働 地域社会への電力の安定供給 および 安定収益基盤の確立に貢献

- 高効率で経済性に優れた電力を神戸・真岡で供給
- 電力事業の収益は400億円規模へ
- 石炭火力高効率化、CNへの挑戦も推進



### 電力事業収益推移 [億円]



アルミ系事業(板、押出、サスペンション)の収益性が低下

	戦略投資	現状		
		ものづくり力	数量構成	価格
鋼材 (ハイテン)	米国PRO-TEC 新CGL	量産体制確立は 計画通り	自動車生産減	価格転嫁進展
	加古川 3 CGL			
アルミ板	中国天津アルミ		自動車生産減 ・ アルミ適用拡大 の遅れ	エネルギーコスト、 副原料等高騰 ↓ 価格転嫁に遅れ
	韓国ウルサンアルミ			
	真岡 パネル新ライン			
アルミ押出	米国KPEX 追加投資	生産性未達		
アルミ サスペンション	米国KAAP 追加投資			

- 各投資、自動車向け拡販を企図
- 高加工性ハイテン、アルミパネル等の量産を  
順次拡大していくことを計画

アルミ系事業の収益低下

アルミ系事業(板、押出、サスペンション)の収益改善に向けて

	2022年度取組み	2023年度課題・取組み
ものづくり力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● KAAPは設備トラブル低減・IE活動を推進、国内から技術者支援も実施</li> <li>➔ 生産性は足下で既に改善傾向</li> </ul>	<p>課題 <b>KAAPものづくり力向上の完遂</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備トラブル低減を中心とした改善活動の継続で更なる生産性改善を図る</li> </ul>
数量構成改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車需要減の中、拡販活動に注力</li> <li>➔ <b>2023年度量産開始案件受注</b> (KAAP、KPEXは想定受注を確保済)</li> </ul>	<p>課題 <b>需要捕捉、アルミ板拡販</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 回復する自動車需要の取り込み</li> <li>● アルミ板では新規拡販に注力</li> </ul>
価格改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 諸コスト高騰に対し、価格反映のフォーミュラ化についてお客様と協議</li> <li>➔ <b>副原料はフォーミュラ化で妥結済</b></li> </ul>	<p>課題 <b>コスト転嫁・マージン改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーコストの転嫁</li> <li>● マージン改善に向けての交渉</li> </ul>
<p><b>各事業において2023年度下期の黒字化を目指す</b></p>		

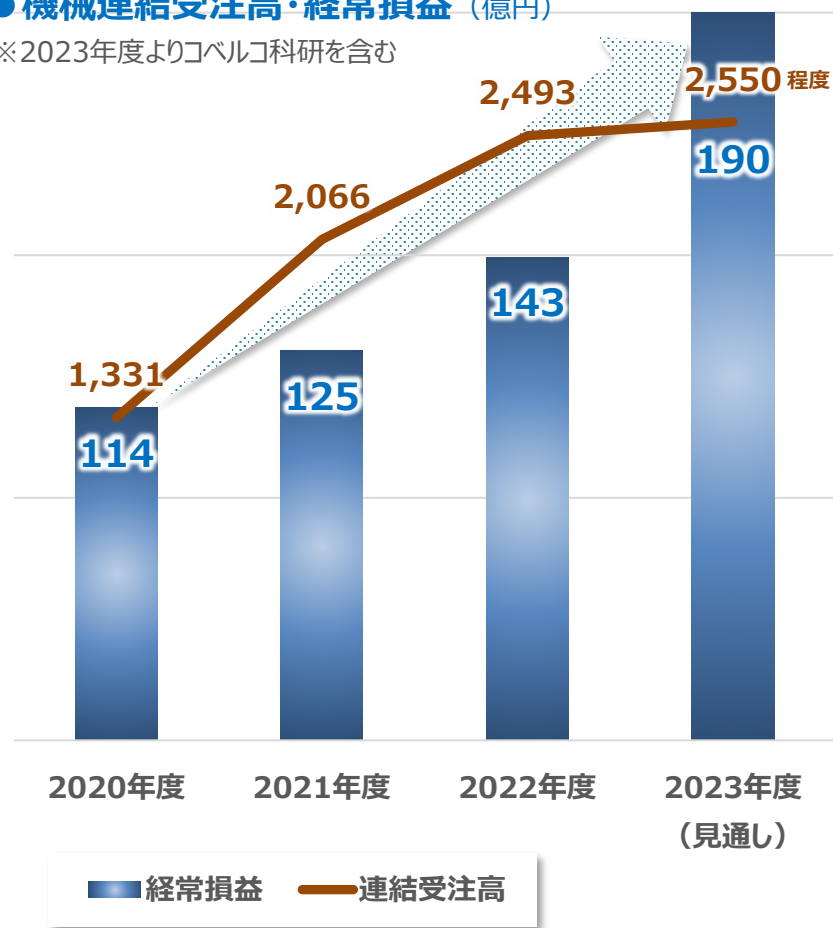


機械

2022年度、過去最高の連結受注高を更新、更なる成長を目指す

● 機械連結受注高・経常損益 (億円)

※2023年度よりコベルコ科研を含む



【収益安定化】

- エネルギー分野、産業分野とも受注が伸長
- 汎用圧縮機は三浦工業様との資本・業務提携にて国内外での空気圧縮機の事業規模拡大

分野別受注額 [億円]	2020年度実績	2023年度見通し
エネルギー・化学分野	543	975
一般産業分野 (汎用圧縮機含む)	690	1,277
新分野	98	298

【成長市場への対応】

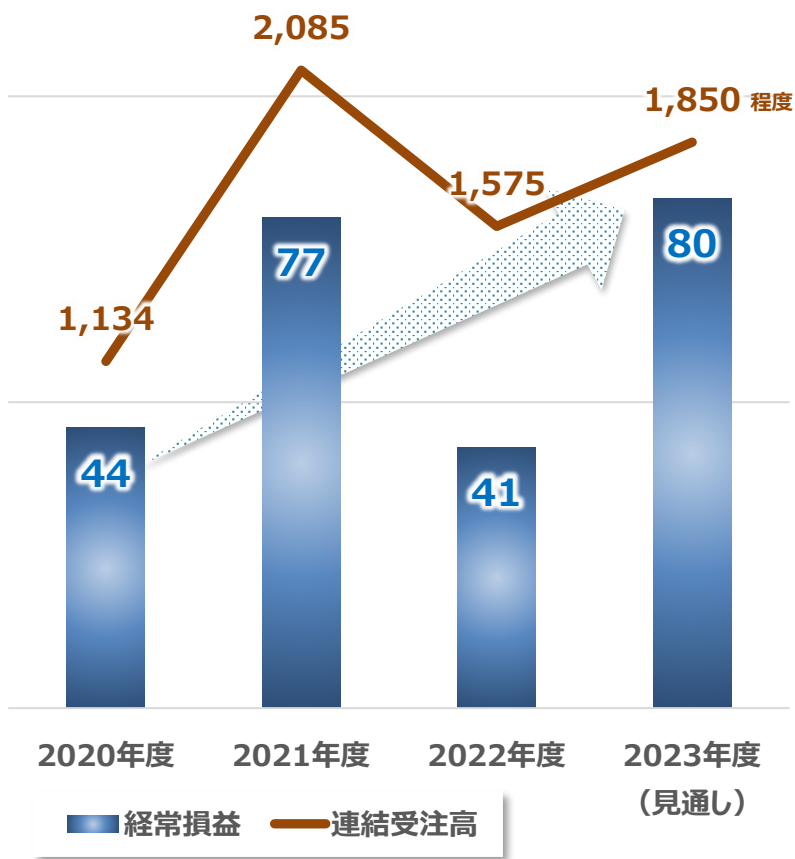
- エネルギー転換に向けた成長市場での環境貢献メニューの拡充に取り組む

用途	脱炭素関連	4%	15%
	LNG関連	13%	20%
	石油関連	36%	27%

エンジニアリング

MIDREX、神鋼環境ソリューションの環境貢献メニューで受注は堅調

●エンジニアリング連結受注高・経常損益（億円）



【収益安定化】

● MIDREX

MIDREX H2™とMIDREX Flex™でそれぞれ世界初となる商業機を受注

公表	向け先
2022年10月	スウェーデン/H2 Green Steel社 [還元プロセス] MIDREX H2™
2023年 3月	ドイツ/thyssenkrupp社 [還元プロセス] MIDREX Flex™

● 神鋼環境ソリューション

バイオマス資源である下水汚泥燃料化の大型案件、廃棄物処理関連事業における複数の大規模改修工事案件など堅調な受注

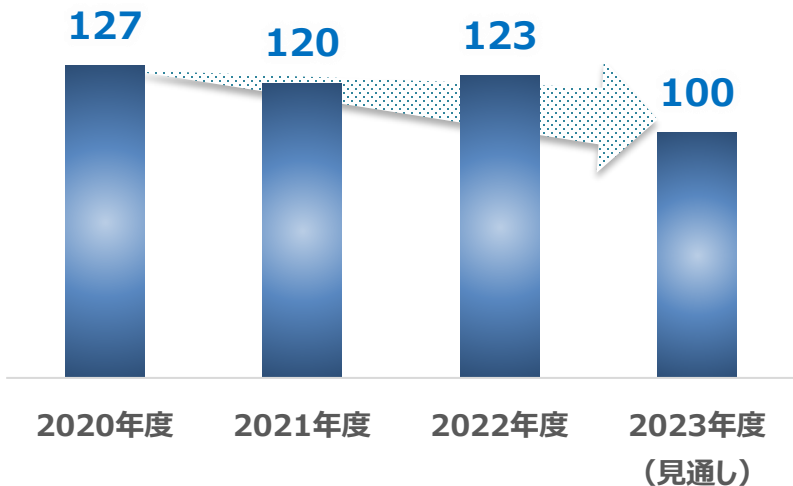
【成長市場への対応】

- 保有する複数の環境貢献メニューで成長市場の需要を捕捉  
→ “カーボンニュートラルへの挑戦” にてご説明

建設機械

エリア相互補完体制の構築は進展、コト・周辺ビジネスの事業化に注力

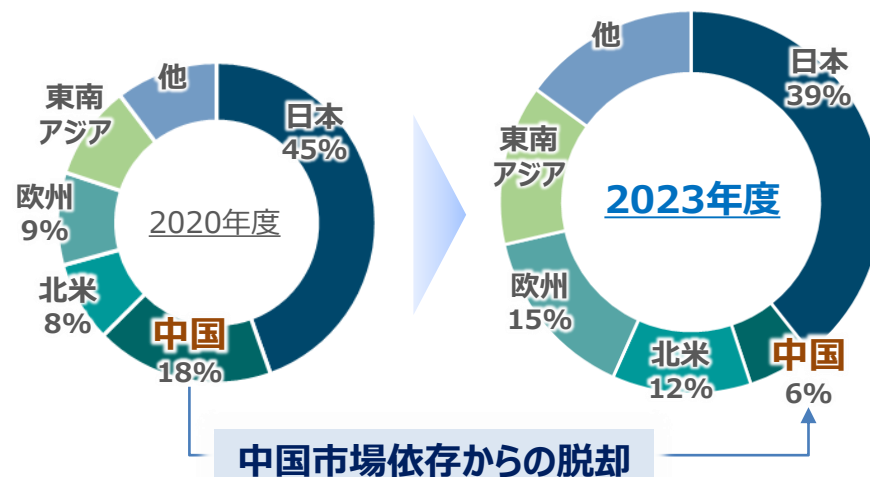
● 建設機械連結経常損益 (億円)



【収益安定化】

- クレーンは黒字化実現
- ショベルは変動費高騰や部品供給不足に加え、中国事業の低迷もあり収益は減少
- 中国市場依存からの脱却は進展
- 変動費の価格転嫁、代替エンジン搭載機種の新上市などにより、収益改善を図る

【エリア別 売上高構成】



【成長市場への対応】

● コト・周辺ビジネスの事業化・収益化を推進

	2020年度	2023年度	目指す割合
本体 ビジネス	80%	60%	40%
ストック ビジネス	20%	40%	30%
コト・周辺 ビジネス	—	—	30%

建設機械

「コト・周辺ビジネス」における取組み

“K-DIVE®”

重機の遠隔操作システムと稼働データの活用により、「誰でも働ける現場」への変革を継続支援するサービス

Phase1  
固定ヤード  
での作業

Phase2  
一般土木現場  
での作業

Phase3  
マッチング  
サービス

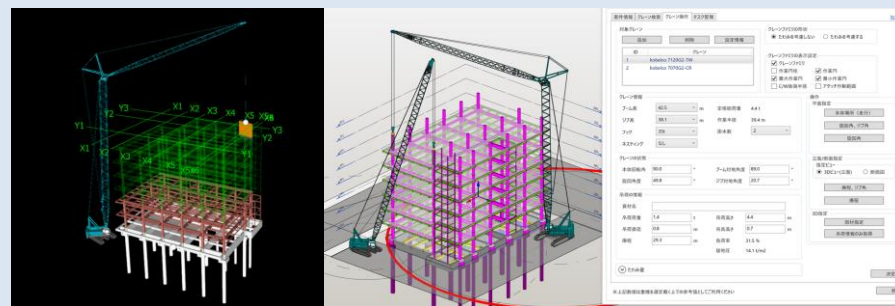


- 2022年12月サービス開始（Phase1）
- 引き合いは想定を上回る状況  
→成約の積み上げ、収益化に引き続き注力

“K-D2 PLANNER®”

簡単に建設施工計画をつくる事が可能な  
シミュレーションソフト  
＜クレーン施工計画支援ソフトウェア＞

- ✓ IoTの力で思い通りに施工が進む現場を目指し、生産性・安全性の向上に貢献



（豊富な重機情報をデータベース化）

- 2022年11月に製品提供開始
- NETIS（新技術情報提供システム）への登録完了  
→更なる拡販に向け、代理店網の構築を加速

# 財務状況

## 財務戦略の 基本方針

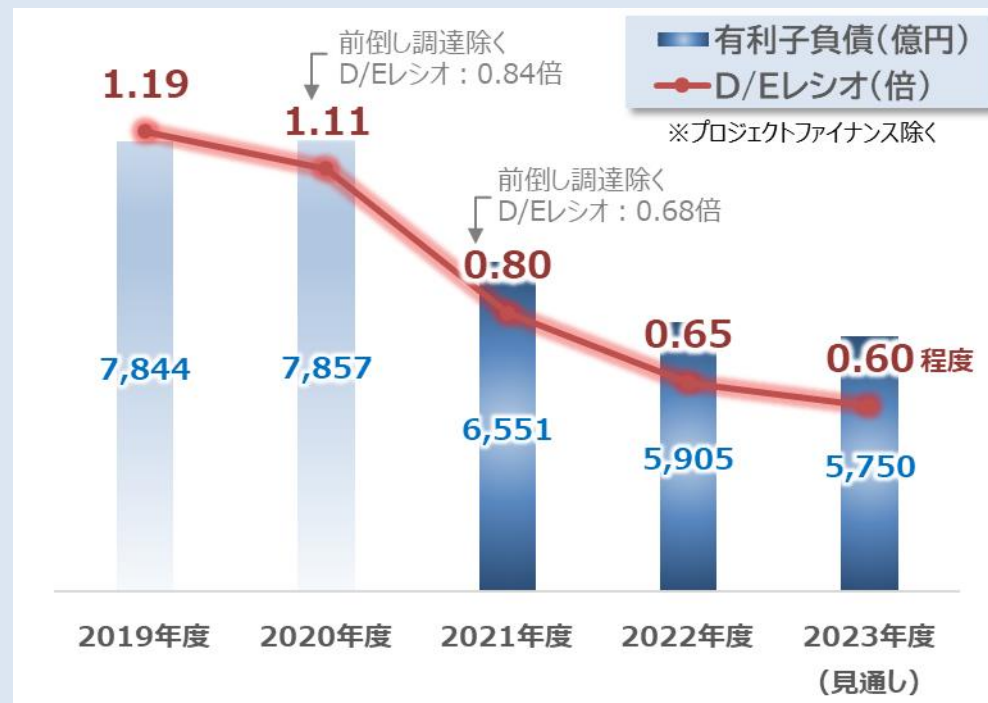
- 新規設備投資・投融資を厳選の上で、投資キャッシュフローを営業キャッシュフローの範囲内とし、目標とする2023年度末のD/Eレシオは0.7倍以下

## 足下の 財務状況

- D/Eレシオ0.7倍以下は前倒しで達成、2023年度末は約0.6倍まで改善
- フリーCFは運転資本の増加により減少

### 2021～2023年 累計 キャッシュフロー実績 (プロジェクトファイナンス除く) (億円)

	2021年 5月時点	2023年 5月時点
営業CF	4,200 程度	3,450 程度
投資CF	△3,200 程度	△2,750 程度
フリーCF	1,000 程度	700 程度
D/Eレシオ	0.7倍 以下 (2023年度)	0.6倍 程度 (2023年度)



継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、当社の財政状態、先行きの資金需要、各期の業績及び配当性向等を総合的に勘案して決定

	2019 年度	2020 年度	2021 年度			2022 年度			
			中間	期末	年間	中間	期末	年間	
配当金 (円/株)	—	<b>10.0</b>	10.0	30.0	<b>40.0</b>	15.0	25.0	<b>40.0</b>	
配当 性向	—	<b>15.6%</b>				<b>25.0%</b>			<b>21.8%</b>

1. はじめに

2. 安定収益基盤の確立

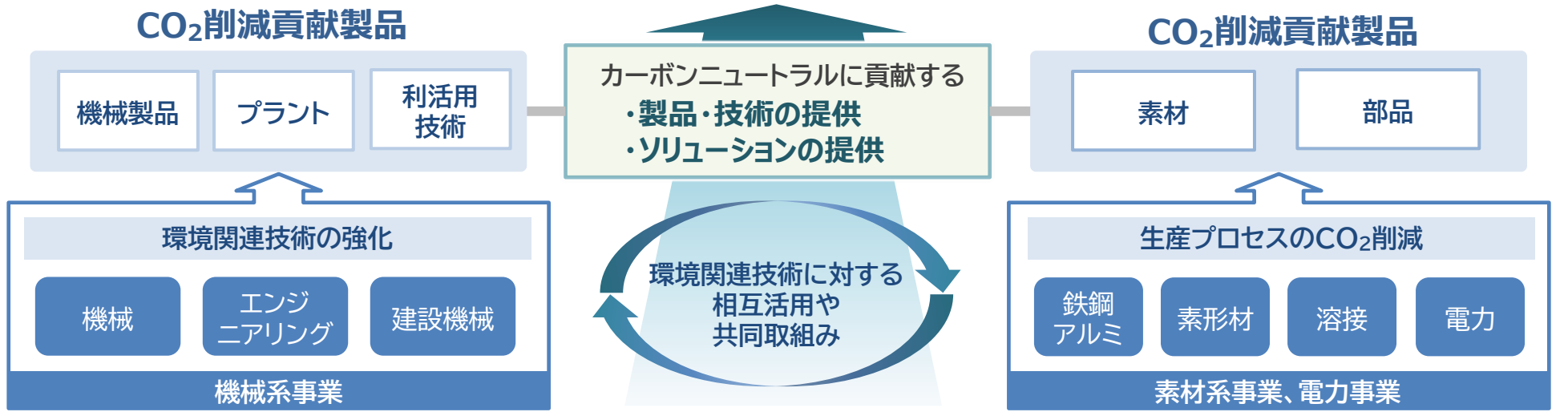
3. **カーボンニュートラルへの挑戦**



グループの総合力で製品・技術に加えて、ソリューション提供にも取り組んでいます。

	2030年目標	2050年ビジョン
生産プロセスにおける <b>CO<sub>2</sub>削減</b>	<b>30~40%</b> (2013年度比)	カーボンニュートラルへ 挑戦し、達成を目指す
技術・製品・サービスによる <b>CO<sub>2</sub>排出削減貢献</b> (※1)	<b>6,100万t</b> (うちMIDREX®4,500万t以上)	<b>1億t以上</b>

## 【2050年ビジョン】カーボンニュートラルへの挑戦



(※1) 当社グループ独自の技術・製品・サービスを通じて社会の様々な分野でCO<sub>2</sub>排出削減に貢献



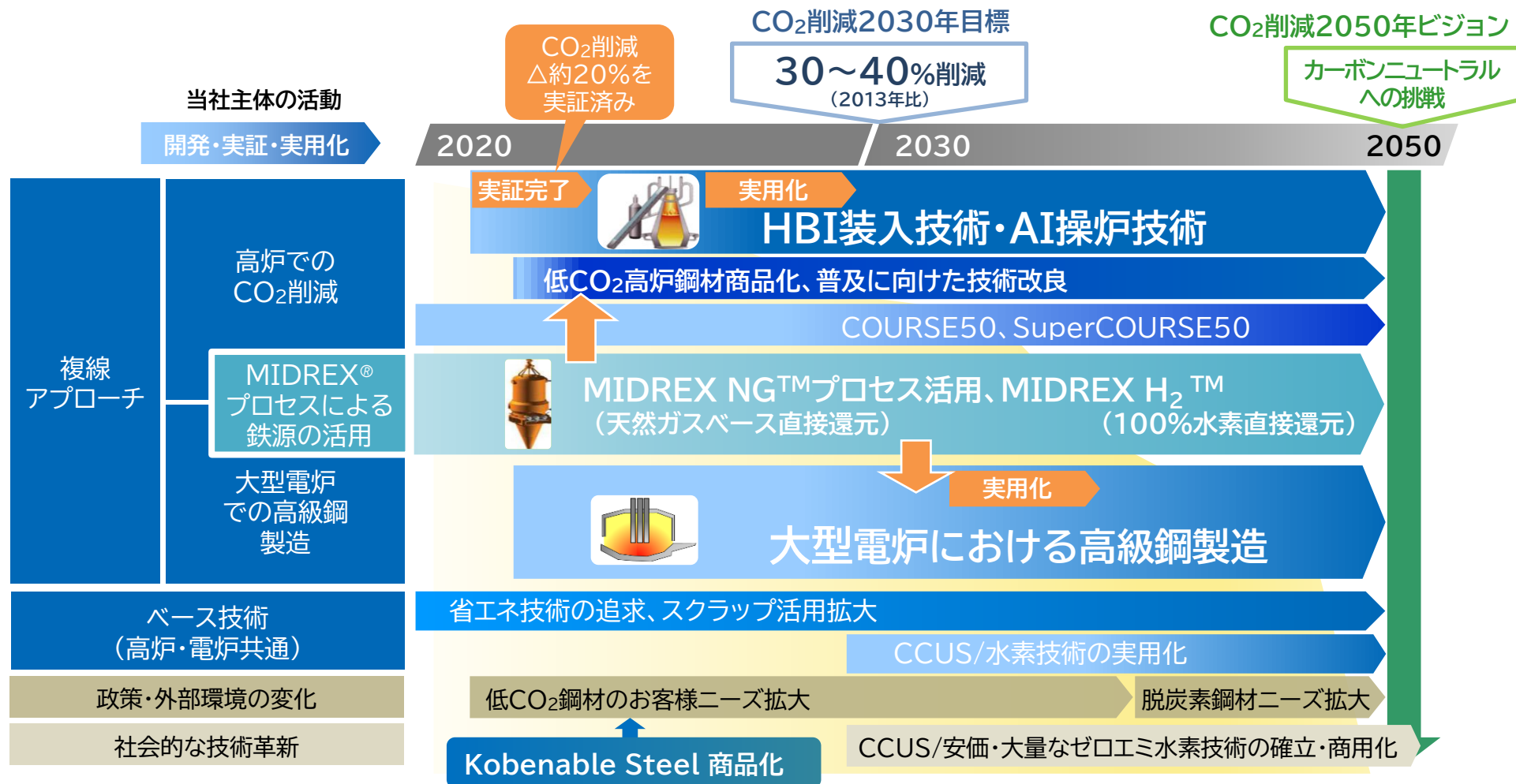
# 1. 生産プロセスにおけるCO<sub>2</sub>削減

- ① 製鉄プロセス
- ② 電力事業

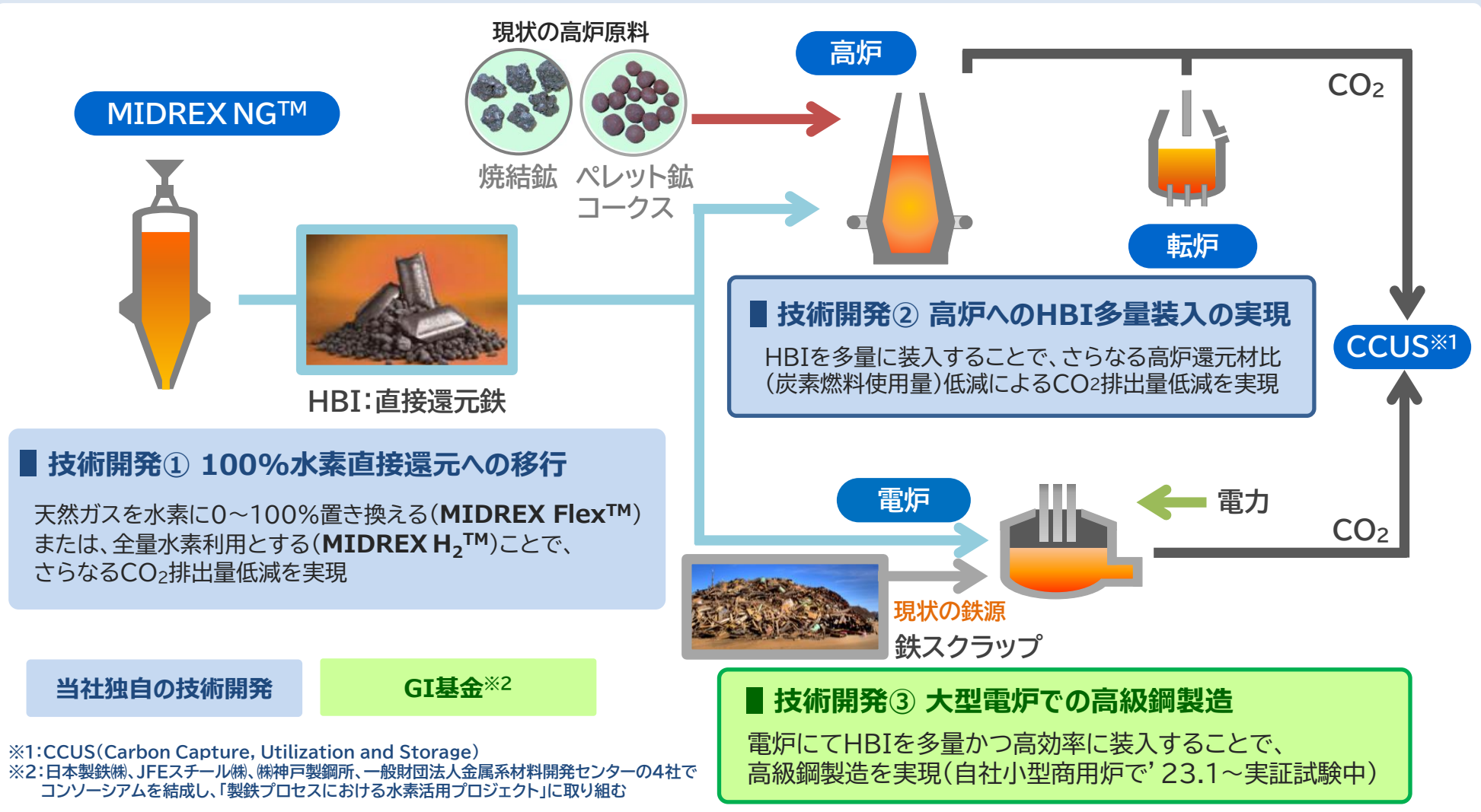
# 2. 技術・製品・サービスによるCO<sub>2</sub>排出削減貢献

- ① 製鉄プロセスへの貢献
- ② エネルギー転換産業への貢献
- ③ 循環型社会への貢献

製鉄プロセスのロードマップについては変更なし。  
GI基金事業なども活用しながら、着実な技術検討に取り組んでいる。



- **技術開発①** : MIDREX®プロセスによる鉄源は、天然ガスを水素に置き換え還元する技術に移行予定
- **技術開発②** : 当社MIDREX®によるHBI製造技術と高炉でのHBI装入技術を組み合わせ、更なるCO<sub>2</sub>削減を計画
- **技術開発③** : グリーンイノベーション基金(GI基金)に参画し、HBI多量溶解による高級鋼製造技術開発に着手



計画通りに高炉へのHBI装入技術高度化のためのテストを実施。  
引き続き、HBI装入技術の高度化およびHBI装入設備の検討を推進

【2050年ビジョン】カーボンニュートラルへの挑戦

<2021年2月公表>

製鉄工程における  
CO<sub>2</sub>低減ソリューション

鉄鋼

エンジニアリング

CO<sub>2</sub>約20%削減を実証済み

<KOBELCOグループ独自の技術>

MIDREX®

HBI製造技術

×

HBI装入技術

×

AI操炉技術

×

ペレット改質技術

【2030年目標】  
CO<sub>2</sub>排出量30~40%削減

2026~29年

2022~23年

~2021年

高炉へのHBI連続装入の実現

- HBI最大装入技術の実現
- 量産に対応した設備の戦力化

高炉へのHBI装入技術の深化

- ① 高炉へのHBI装入技術の高度化
- ② 高炉へのHBI装入設備の検討

低CO<sub>2</sub>高炉鋼材の販売

- HBI装入によるCO<sub>2</sub>削減効果を商品化



Kobenable Steel

国内初の低CO<sub>2</sub>高炉鋼材  
「Kobenable Steel」  
2022年5月から販売開始

様々な事業分野のお客様から高い関心  
グリーンスチールの認知度向上に貢献



Kobenable Steel

自動車

2022年6月

トヨタ自動車様

競技車両「水素エンジンカローラ」の  
サスペンションメンバーに採用

Kobenable Premier

自動車

2022年12月

日産自動車様

日産自動車様の生産する量産車に  
順次適用

Kobenable Premier

建設

2022年12月

IHI様、三菱地所様、鹿島建設様

「(仮称)豊洲4-2街区再開発計画B棟  
(東京都江東区豊洲)」新築工事に採用

Kobenable Premier

造船

2023年3月

今治造船様

今治造船様が建造する18万t級バルク  
キャリアに採用

Kobenable Premier

■ GX実行会議において、2030年に1000万tのグリーンスチール供給の目標が掲げられている。

→ グリーンスチール市場の拡大に向け、当社は率先して取り組んでいく。

(市場拡大のためには、「グリーンスチールの標準化」や「普及に向けた制度設計」などの環境整備も必要)

- アンモニアの混焼・専焼については、実用化に向けた取り組みを進めるため、国の施策およびNEDOを中心とする技術開発の動向をフォローし社内での詳細な検討を推進。
- バイオマス燃料の混焼については、神鋼環境ソリューションと共同で下水汚泥由来のバイオマス燃料の混焼、および抽気蒸気の利活用<sup>※1</sup>に向けたプロジェクトを推進

※1 水電解式水素発生装置による水素製造







# 1. 生産プロセスにおけるCO<sub>2</sub>削減

- ① 製鉄プロセス
- ② 電力事業

# 2. 技術・製品・サービスによるCO<sub>2</sub>排出削減貢献

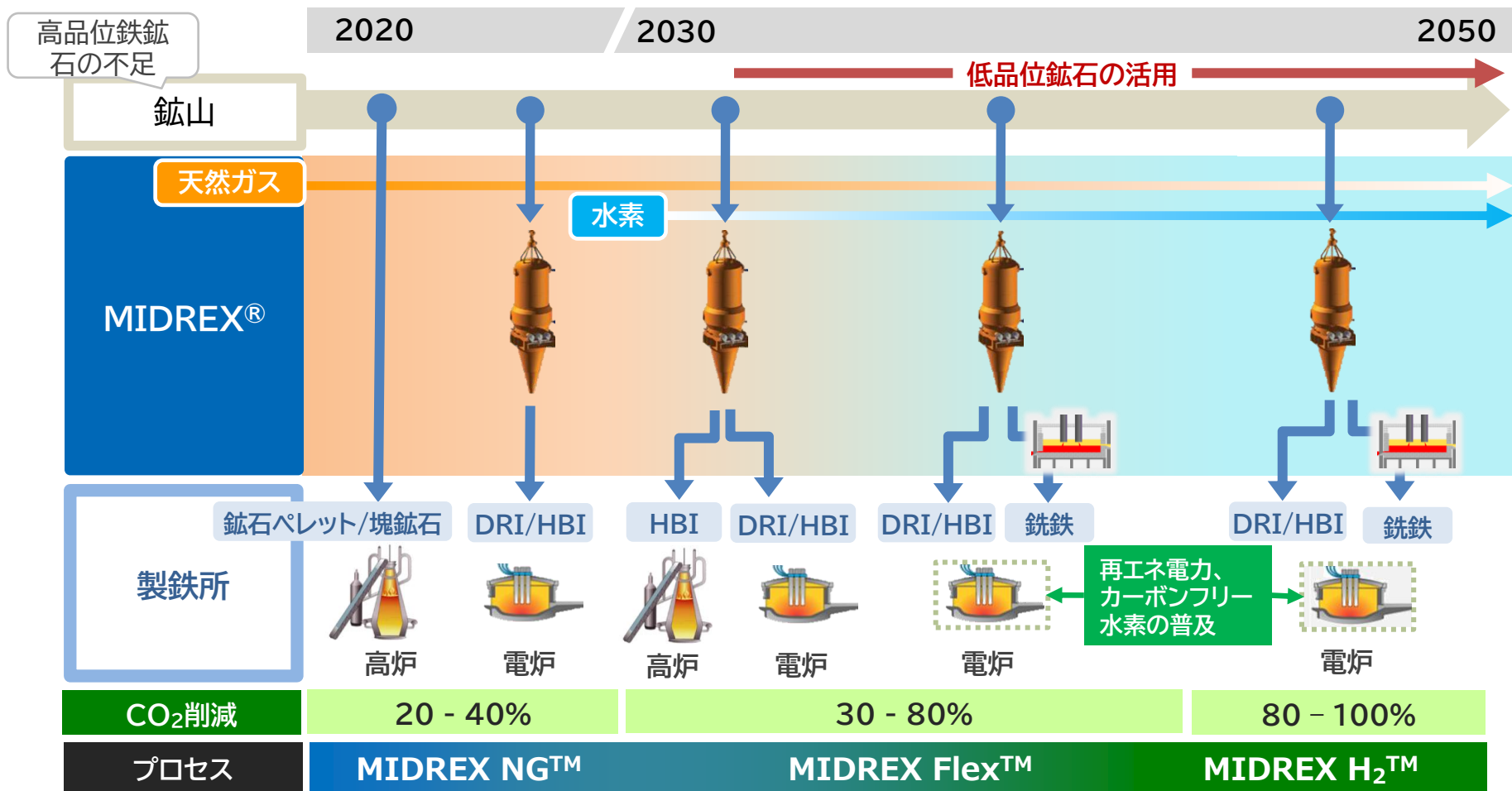
- ① 製鉄プロセスへの貢献
- ② エネルギー転換産業への貢献
- ③ 循環型社会への貢献



これからカーボンフリー水素の導入が進む地域にもフレキシブルに対応可能であり、  
トランジション期間における最適なソリューションを提供



カーボンニュートラル達成に向けて、短中期～長期 のいずれのステージにおいても  
CO<sub>2</sub>削減ソリューションを提供可能



※1 CO<sub>2</sub>削減量は、導入設備・使用原料等、固有の環境により変化する可能あり ※2 DRI:Direct Reduced Iron ※3 HBI:Hot Briquetted Iron

# オマーン国における低炭素鉄源の事業化検討について

MIDREX®プロセスを活用した直接還元鉄HBIの製造・販売の事業化(低炭素鉄源の事業化)について、三井物産様(以下、三井物産)と共同で検討

神戸製鋼 × 三井物産

①低炭素鉄源事業の推進  
に関する包括的覚書

オマーン国の特別経済地区を  
管理するOPAZ※1



②ドゥクム特別経済地区の  
土地予約契約

ドゥクム特別経済地区の  
港湾開発・管理を担う  
Port of Duqm Company S.A.O.C.

オマーン国ドゥクム特別経済地区での事業用地確保、天然ガスの割当確保と  
現地関係者の協力体制確立に目途

# オマーン国における低炭素鉄源の事業化検討について

## オマーン国

- 天然ガスが豊富に産出
- OmanVision2040に基づき再生可能エネルギーやグリーン水素の供給がエネルギー政策の柱の一つとなっている。

→今後のグリーン化の観点からも低炭素鉄源事業に理想的な立地



## MIDREX®プロセス

- 還元剤として天然ガス～水素への移行も視野に入れた直接還元製鉄プロセス。
- トランジション期間での対応も可能な、今後のグリーン化に最適な製鉄プロセス

MIDREX®プロセスによる年産500万トンの直接還元鉄製造を検討しており、今後、当社および三井物産はオマーン国での低炭素鉄源事業の本格的な検討を加速

～ 低炭素な鉄源(HBI)の供給により、日本を始めとした鉄鋼業全体の脱炭素化に寄与 ～

- 機械事業の圧縮機、熱交換器・気化器は、エネルギー転換産業におけるサプライチェーンの各所で活躍が期待され、カーボンニュートラル社会の実現に貢献。

→ 機械事業の取組みについては、別の機会で説明予定。

**H<sub>2</sub>**  
水素

**NH<sub>3</sub>**  
アンモニア

**CO<sub>2</sub>**  
二酸化炭素

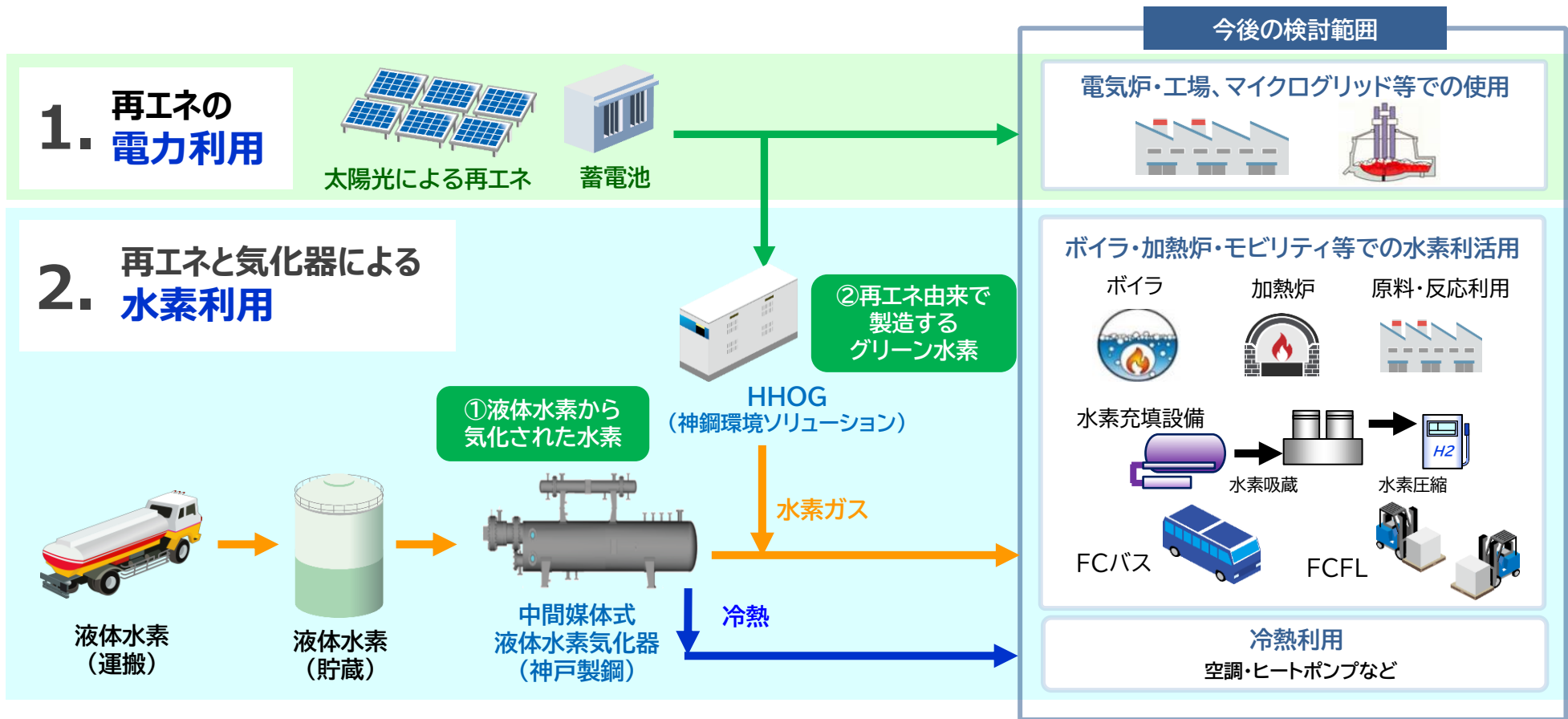
**LNG**  
液化天然ガス





機械 × エンジニアリング × 素形材

高砂製作所で建設していた「ハイブリッド型水素ガス供給システムの実証設備」については  
**予定通りに2023年3月から順次稼働を開始**



※ 実証の一部は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構による「水素社会構築技術開発事業」における調査委託、および助成事業に採択されています。  
 a 「熱によるエネルギー消費が主体の工場の脱炭素化に向けた水素利活用モデルに関する調査」、b 「液化水素冷熱の利用を可能とする中間媒体式液体水素気化器の開発」

機械

×

エンジニアリング

×

素形材

## 水素を「創る」側と「使う」側の両方の視点

- KOBELCO グループは水素供給に関連する多様な製品・技術(創る)を保有すると同時に、大量の水素利活用ポテンシャルがある工場(使う)も保有しています。
- 今後、水素ガス中規模利活用のモデルケースとなる当社高砂製作所で、以下に取り組みます。

① 各設備のスケールアップと製品・システムの改良・開発

② 水素ユーザーのバリエーションの追加検討

③ 「創る」側と「使う」側、両サイドの課題に対するKOBELCOらしい両睨みの最適ソリューションの創出・提供

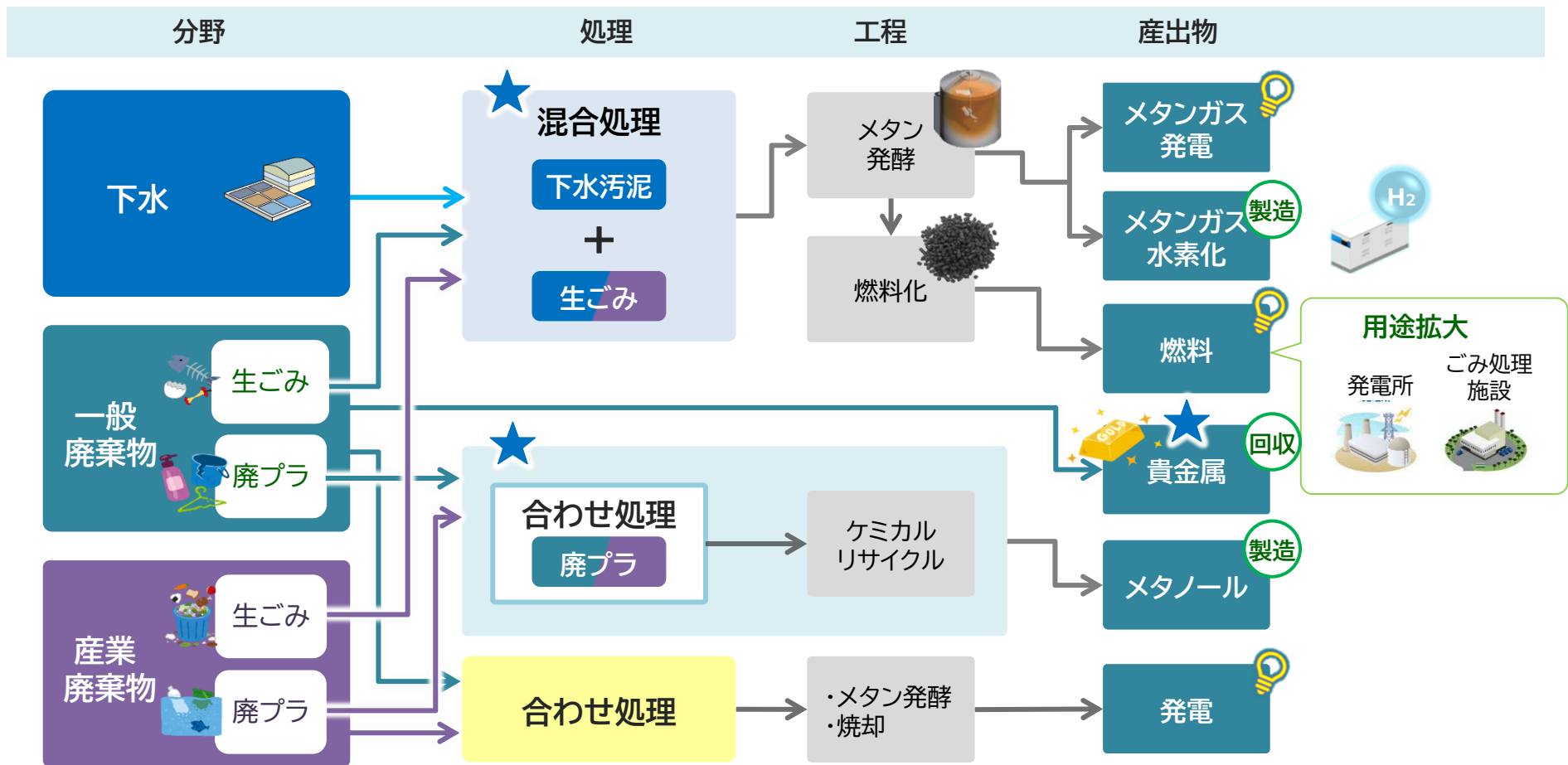
★ 上記の取組みの一部については、NEDOの調査事業、実証事業にも採択されています。

- カーボンニュートラルに対応して、「下水汚泥・食品廃棄物の有効利用」、「下水・廃棄物処理設備の効率的な運用」などでの新規技術・ビジネスの創出に関する取組みを推進。

→ 神鋼環境ソリューションの取組みについては、2022年9月のIR説明会資料もご参照ください。

[参照リンク](#)

★ 神鋼環境ソリューション独自技術&独自の取組み





下水処理

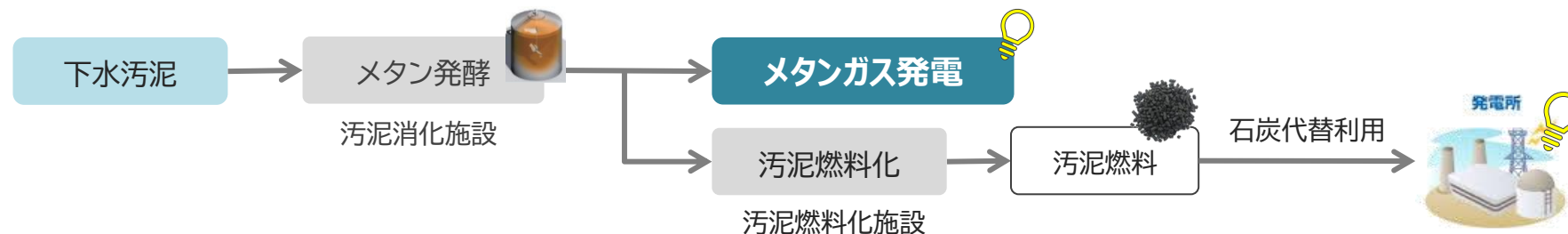
一般廃棄物

カーボンニュートラルの実現を目指し、下水污泥の消化・燃料化分野において新たな開発に着手

## ①「兵庫東流域下水污泥広域処理場污泥処理施設改築工事」を当社代表企業グループが受注

● 2021年10月工事請負契約締結 ● 契約金額(税込):480億1500万円

- 国内最大級の下水污泥処理施設
- 下水污泥からメタンガスと污泥燃料を製造し、発電燃料として利用することで温室効果ガス排出量を削減



## ②「福知山市污泥処理再構築事業污泥有効利用施設整備工事」を当社代表企業グループが受注

● 2022年1月工事請負契約締結 ● 契約金額(税込):55億円

- 下水污泥から污泥燃料を製造し、神戸発電所での石炭代替利用を検討

## ③「琵琶湖湖南中部浄化センター下水污泥燃料施設建設工事」を当社代表企業グループが受注

● 2022年10月工事請負契約締結 ● 契約金額(税込):101億2000万円 ● 滋賀県の下水処理場では初となる污泥消化施設導入

下水処理

一般廃棄物

産業廃棄物

神鋼環境ソリューション

日本で初めて下水処理場内にて産廃処理業の許可を取得し、運営に取り組む

## ① 神戸市における「東灘処理場汚泥処理施設改築更新等事業」を受注

● 2022年11月事業基本契約締結 ● 契約金額(税込):工事請負契約45億7600万円、維持管理委託契約62億6199万円

- 廃棄物のエネルギー化を、既設インフラを活用し実施
- バイオマスエネルギー地産地消型施設
- 下水処理設備の改築更新を約10年間、及び維持管理業務を20年間にわたり実施



★下水由来の消化ガス発生量約12,000m<sup>3</sup>/日に、食品廃棄物等の投入により **約10%ガス量を増やし、発電量増、CO<sub>2</sub>削減に貢献**

- ・ 発電量:8,500MWh/年以上 (一般家庭約2,400世帯分)
  - ・ CO<sub>2</sub>削減量:3,000t-CO<sub>2</sub>/年以上(発電に係るCO<sub>2</sub>排出係数を0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWhとする)
- ※大規模下水処理場(100,000m<sup>3</sup>/日)CO<sub>2</sub>排出量 8,864t-CO<sub>2</sub>/年<sup>\*1</sup>

メタンガスからの効率的な水素製造技術を確立

## ② 富士市における下水道革新的技術実証事業<sup>\*2</sup>にて、メタン濃度を高めた精製ガスから水素を製造し、市販の燃料電池自動車に活用。

\*1 環境省・国土交通省発行「下水道における地球温暖化対策マニュアル」より

\*2 「高濃度消化・省エネ型バイオガス精製による効率的エネルギー利活用技術実証研究」

2018年度に当社、地方共同法人日本下水道事業団、富士市の共同研究体が、国土交通省に提案し、採択された事業

次期中期経営計画に向けて

安定収益基盤の確立

カーボンニュートラルへの挑戦

継続

加速

財務体質の強化

ボラティリティの抑制

事業ポートフォリオ戦略  
経営基盤の更なる強化

戦略の具体化・実行

成長市場の需要捕捉

持続的な成長・企業価値向上

(株主還元の拡充・PBR向上)

[今後の公表・イベント予定]



**DX戦略に関する取組み**

日程：2023年5月22日  
当社HP上で公表

【概要】

- ✓ DX戦略のロードマップ
- ✓ 具体的な取組事例



**機械事業説明会**

日程：2023年7月6日 午後  
オンライン開催

【概要】

- ✓ 機械事業の概略
- ✓ 取り巻く環境
- ✓ 機械事業の目指す姿



**(仮称)  
KOBELCO ESG DAY**

日程：2023年9月27日 終日  
(開催方法は未定)

【概要】

- ✓ ESG説明会
- ✓ 社外取締役パネルディスカッション
- ✓ 個別事業説明 (コベルコ建機・エンジニアリング)

<h2>KOBELCO が 実現したい未来</h2>	<p>「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来</p> <p>安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。</p>								
<h2>KOBELCO の 使命・存在意義</h2>	<p>KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命</p> <p>個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつづける。</p>								
<h2>KOBELCO の 3つの約束</h2>	<p>KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します</li> <li>2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます</li> <li>3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します</li> </ol>								
<h2>KOBELCO の 6つの誓い</h2>	<p>「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 高い倫理観とプロ意識の徹底</td> <td>3. 働きやすい職場環境の実現</td> </tr> <tr> <td>2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献</td> <td>4. 地域社会との共生</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5. 環境への貢献</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6. ステークホルダーの尊重</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><b>品質憲章</b></p>	1. 高い倫理観とプロ意識の徹底	3. 働きやすい職場環境の実現	2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献	4. 地域社会との共生		5. 環境への貢献		6. ステークホルダーの尊重
1. 高い倫理観とプロ意識の徹底	3. 働きやすい職場環境の実現								
2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献	4. 地域社会との共生								
	5. 環境への貢献								
	6. ステークホルダーの尊重								

- 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。
- 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
  - ・ 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
  - ・ 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
  - ・ 為替相場の変動
  - ・ 原材料のアベイラビリティや市況
  - ・ 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
  - ・ 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化

**KOBELCO**